【 6 】

氏　　名	川村　幸城
学位の種類	博　士（安全保障学）
学位記番号	第４９９号
認定課程名	防衛大学校総合安全保障研究科後期課程
学位授与年月日	平成２７年８月２１日
論文題目	戦後米国の限定戦争と戦略的パフォーマンス －情報フローからのアプローチ－
審査担当専門委員	（主査）中央大学教授　滝田賢治 桜美林大学教授　加藤　朗 立教大学教授　佐々木　卓也

審　査　の　結　果　の　要　旨

本論文は、第 2 次世界大戦後アメリカが関与した「限定戦争」としての朝鮮戦争、ヴェトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争の 4 つの事例を取り上げ、それぞれの戦争の政治目的達成度としての戦略的パフォーマンスが多様化した原因として、「高位の政治指導者」と「国家安全保障組織」をつなぐ情報フローのパターンに注目し、分析・考察したものである。情報フローは、第 1 に政府の階層的組織構造に沿って形成される「縦断的フロー」と、第 2 に政府内の組織をつなぐ「横断的フロー」であり、両者の組み合わせにより、多様な情報フローの類型が考えられると主張している。極めて意欲的な試みである。

しかしいくつかの疑問が残るのも事実である。

第 1 に筆者は「限定戦争」として 4 つの戦争を取り上げているが、そもそも「限定戦争」とは何かという定義が明確でない。同時に、はたして湾岸戦争以外の 3 つの戦争は「限定戦争」であったのかという深刻な疑問が残る。

第 2 に、情報のフロー(伝達)といっても口頭によるもの、電話・ファックスなどによるもの、最近ではメールによるものなどその手段は多様であるが、口頭試問で筆者は、ここでいう情報フローとは「大統領の判断に影響を与えた政策ペーパー」であると答えたが、この点は極めて重要であり、論文の最初にもっと明確な形で強調すべきものであった。

第 3 に、「戦後米国の限定戦争」と分析対象を絞っているが、他の国家の政治体制の開放性と閉鎖性を前提にしたより広い考察をすれば、興味深い業績に発展する可能性の高いものであるとの指摘もなされた。

第 4 に、前者 2 つの戦争を二極構造時代のもの、後者 2 つの戦争をアメリカ単極時代のものと規定して考察しているが、単純に二極構造といっても、米ソデタントにより条件は大きく異なっているので、より緻密な考察が求められる。

とはいえ、独創的でチャレンジングな業績であり、審査員一同、今後の研究発展を期待しつつ博士(安全保障学)の学位を授与するに値する論文であると認定する。